

見どころ案内

本当は真んかが開きます

!! 勝鬨橋 (国指定重要文化財)

(勝どき1~築地6)
1940年に完成した、当時世界で最高の技術でつくられた橋。当初は1日に5回、1回20分、中央部が開き大型船を通したが、道路の交通量が増え、1968年から開かずの橋になっている(→p.116)。



橋と運河が多いこのエリア。17世紀に生まれた佃島の歴史が息づくスポットが今もたくさん残っている。さあ探検に行こう!



ごうか客船や南極探検船「しらせ」が出港

!! 晴海客船ターミナル (晴海5-7-1)

ごうか客船がとまり、南極観測船「しらせ」が出港・帰港する港だ。客船ターミナルからはレインボーブリッジが正面に見え、ながめはばつぐん。



勝鬨橋を歩いてみよう
いろんな発見があるよ。



!! 佃波除稻荷神社 (佃1-8-4)

台風や津波の被害がなくなるように願ってつくられた神社。境内の木の根もとに置かれた「さし石」は昔、漁師たちが力比べに持ち上げた石だ。



かっこいい
もけいがいっぱい
あるね!



蒸気船「通運丸」をつくっているようです。

1902 (明治35)年の軽便鉄道用蒸気機関車のもけい。



船や機関車のもけいがいっぱい

!! 石川島資料館 (佃1-11-8)

大川端リバーシティ21にあるIH1の資料館。IH1は以前、石川島に造船所をもっていた。そのため佃島と石川島の歴史の資料や船のもけいなどを所蔵している。



!! 佃小橋・大帆の柱 (佃1)

佃川支流にかかり、佃島ができたときにかげられた橋。橋のわきの水中には、住吉神社の大祭でつかう大帆の柱が保存されている。



ぶらぶら歩いて、もんじゃを食べよう

!! 西仲通り (もんじゃストリート)

(月島1丁目~3丁目)
60軒以上のもんじゃ屋がある商店街だ。昔ながらの店が味わい深い。写真に見える旧西仲通交番は2007年まで警視庁で最古の建物だった。



300年以上続いた 渡し船の発着場

!! 佃島渡船場跡

(佃1-3-14先)
佃島と湊町を結ぶ渡し船は、佃島ができて間もない1645年にはじまった。東京オリンピックの年(1964年8月)まで利用された。



!! 幕末につくられた灯台 石川島燈台跡 (佃1-11-4先)

江戸湾に出入りする船が安全に航行できるように、1866年につくられた灯台。現在のものは復元した建物だ。

!! 佃島の漁師たちの守り神 住吉神社 (佃1-1-14)

大坂の摂津から佃島に移り住んだ漁師たちが、摂津の田蓑神社(旧住吉神社)と同じ神をまつった神社。3年に1度の大神祭は盛大に行われる。

元祖
佃島の佃煮はなぜうまい!?
佃煮はどうして佃煮というの? 答えは佃島で生まれた煮物だから。江戸時代に小魚を塩から煮て保存食にしたのが始まり。伝統がしみた味だ。

佃島の漁師は江戸幕府に白魚を納めていた。そのとき納めなかった小魚を海水で煮しめたのが佃煮のはじまりといわれる。しょう油で煮つめるようになったのは、江戸後期からで、漁に出る男たちに夏でもくさらない佃煮をもたせたといわれている。その味が江戸の町中で評判になり、やがて各地に広まっていった。今も佃島には代々の味を受けつぐ老舗の佃煮店が営業している。

佃島の佃煮は江戸の町中で「うまい」と評判になり、こんな佃煮売りも登場した。

佃煮の老舗
天安本店 佃源田中屋

丸久
上左:創業1837年の天安本店(佃1-3-14)。上右:江戸後期創業の佃源田中屋(佃1-3-13)。下:先祖は漁師だった丸久(佃1-2-10)。

「江戸名所図絵」にえがかれた白魚漁のようす。右上にえがかれているのは佃島。